日日是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年12月9日木曜日

Oracle RDF Graph ServerをAutonomous Databaseで使用する(4)
- Jetty 9.xのSSL化

Oracle APEXにもOracle RDF Graph Serverにも直接は関係ありませんが、色々と作業があったので記録しておきます。

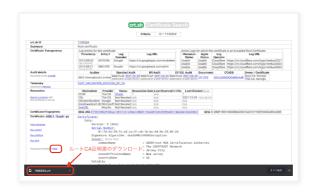
SSLやホスト名がDNSに登録されていないとREST APIを呼べない、というのはAutonomous Database の制約です。HTTPでIPアドレス指定でも(CSRFの対応は心配ですが)Oracle RDF Graph ServerのREST APIは動作すると思います。

以下よりJetty 9.xのSSL化にあたって行った作業を記載します。

最初にコンピュート・インスタンスに割り当てられた**パブリックIP**に割り当てる**ホスト名**を決めて、DNSに登録します。次にSSLのサーバー証明書の取得を行います。以前にOracle REST Data ServicesをSSL化するために実施した手順と同じです。

Google DomainsとZero SSLのサービスを使用しています。

Zero SSLより証明書を**certificate.crt**、中間証明書を**ca_bundle.crt**、秘密鍵のファイルを**private.key**として入手しています。ルートCAの証明書は別途取得します。Zero SSLはUSERTrust RSA Certification AuthorityがルートCAなので、https://crt.sh/?id=1199354よりPEMをダウンロードしました。このファイルはサーバー証明書の取得先で変わります。



Oracle RDF Graph Serverを実行しているコンピュート・インスタンスに接続し、jetty.homeへ移動します。

[opc@rdfgs ~]\$ cd jetty-distribution-9.4.44.v20210927/ [opc@rdfgs jetty-distribution-9.4.44.v20210927]\$ pwd/home/opc/jetty-distribution-9.4.44.v20210927 [opc@rdfgs jetty-distribution-9.4.44.v20210927]\$

今までは、Jettyの設定は**start.ini**にまとまっていました。**SSL**の設定がしにくいので、**start.d**以下のファイルに、それぞれのモジュール毎に記述する方法に変更します。**start.ini**は削除し、**demo-base/start.d**をコピーします。**start.d**に含まれている**demo.ini**は不要なので消去します。

/home/opc以下にsslというディレクトリを作成し**certificate.crt**、**ca_bundle.crt**、**private.key、1199354.crt**(ルートCA証明書)の4つのファイルを配置します。

最初に証明書を1つのファイルに連結します。サーバー証明書、中間証明書、ルートCA証明書の順番で連結し、ファイルcertchain.crtを作成します。

cat certificate.crt ca_bundle.crt 1199354.crt > certchain.crt

```
[opc@rdfgs ssl]$ cat certificate.crt ca bundle.crt 1199354.crt > certchain.crt
```

OpenSSLを使用して証明書のファイル**certcachain.crt**と秘密鍵**private.key**より、PKCS#12形式のファイルを作成します。PKCS#12のファイル名は**my.p12**にしています。

openssl pkcs12 -export -in certchain.crt -inkey private.key -out my.p12

ここで指定するパスワードは、次に実行する**keytool**で要求される**source keystore password**に与えます。

```
[opc@rdfgs ssl]$ openssl pkcs12 -export -inkey private.key -in certchain.crt -out my.p12 Enter Export Password: *******
Verifying - Enter Export Password: *******
[opc@rdfgs ssl]$
```

keytoolを使用してPKCS#12形式からJKS形式のキーストア・ファイルを生成します。destination keystore passwordは、この後に行うJettyのSSL設定に含めます。

keystore -srckeystore my.p12 -srcstoretype PKCS12 -destkeystore keystore.jks

```
[opc@rdfgs ssl]$ keytool -importkeystore -srckeystore my.p12 -srcstoretype PKCS12 -destkeystore keystore.jks
Importing keystore my.p12 to keystore.jks...
Enter destination keystore password: +++++++
Re-enter new password: ++++++++
Enter source keystore password: *******
Entry for alias rdf.apexugj.dev successfully imported.
Import command completed: 1 entries successfully imported, 0 entries failed or cancelled
Warning:
The JKS keystore uses a proprietary format. It is recommended to migrate to PKCS12 which is an industry standard format using "keytool -importkeystore -srckeystore keystore.jks -destkeystore keystore.jks -deststoretype pkcs12".
[opc@rdfgs ssl]$
```

作成したkeystore.jksをjetty.homeのetc以下に移動します。

mv keystore.jks /home/opc/jetty-distribution-9.4.44.v20210927/etc/

```
[opc@rdfgs ssl]$ mv keystore.jks /home/opc/jetty-distribution-9.4.44.v20210927/etc/
```

ユーザーopcのホームに戻り、destination keystore passwordの難読化を行います。**OBF**で始まる文字列をパスワードとして使用します。

```
[opc@rdfgs ~]$ cd [opc@rdfgs ~]$ java -cp jetty-distribution-9.4.44.v20210927/lib/jetty-util-9.4.44.v20210927.jar org.eclipse.jetty.util.security.Password ********** 2021-12-09 06:33:46.903:INFO::main: Logging initialized @382ms to org.eclipse.jetty.util.log.StdErrLog oracle
```

\${jetty.home}/start.d以下にssl.iniを作成します。内容は以下になります。

```
--module=ssl
```

以上でJettyの設定は完了です。

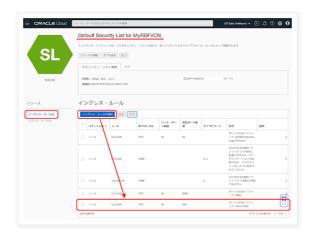
続いてfirewalldの設定を行います。443番ポートで接続の待ち受けを行うので、接続許可を与えます。443番ポートへの接続はJettyが動作しているポート8443番に転送します。最後に設定を永続化します。

```
firewall-cmd --add-port=443/tcp
firewall-cmd --add-forward-port=port=443:proto=tcp:toport=8443
firewall-cmd --runtime-to-permanent
```

これらの手順は、Oracle RDF Graph Serverの環境構築の際に8080番ポートを対象に実施した作業と同じです。

```
[opc@rdfgs bin]$ sudo firewall-cmd --add-port=443/tcp
success
[opc@rdfgs bin]$ sudo firewall-cmd --add-forward-port=port=443:proto=tcp:toport=8443
success
[opc@rdfgs bin]$ sudo firewall-cmd --runtime-to-permanent
success
[opc@rdfgs bin]$ sudo firewall-cmd --list-all
public (active)
  target: default
  icmp-block-inversion: no
  interfaces: ens3
 sources:
  services: ssh
  ports: 8080/tcp 443/tcp
  protocols:
 masquerade: no
  forward-ports:
       port=443:proto=tcp:toport=8443:toaddr=
  source-ports:
  icmp-blocks:
  rich rules:
[opc@rdfgs bin]$
```

パブリック・ネットワークの**セキュリティ・リスト**に、**443**番ポートへの通信を許可する**イングレス・ルール**を作成します。



以上でJettyのSSL化は完了です。設定を反映させるため、Jettyを再起動します。

動作を確認します。Oracle APEXのSQLコマンドより、以下のコードを実行します。

引数p_usernameに与えた名前が応答として返されます。以下では**{"userName":"admin"}**が返されています。



SSLでの暗号化/復号化はロード・バランサで行い、JettyではHTTPで通信するという構成も可能です。最近、Oracle Cloud Infrastructureに証明書のサービスが追加されたため、証明書のローテーションなどを自力で行う必要が無くなりました。

ロード・バランサの作成時にSSL証明書の証明書リソースとして、証明書サービス管理対象証明書を選択します。

ц 1.7()	ンサの作成					∆#2	
 ○ NEOAD ○ NEOXYPORE ○ YAZ-PORE ○ BAYZORE 	リスナーの構成 リステー、ロード・パランサのドアトレスに対する機能トラフィックをチェックを創産レフィックです。TOS. HTTP およが中間サーランサクを観するには、トラフィック・ライブのとに少なくとも1つのリステーを構成する必要がありま サ、ロード・パランサの他選択と高度リステーを構成できます。 リステーの Matter M. 2021-1209-2233						
	リスナーで処理するトラフィッ HTTPS /		HTTP/2	TCP	•		
	7.ストーイ・グジル・トラフィ・クラモニ・トモロビします 449 SSL証明書 認用等リン・ス 1回等リン・ストラー・フィート・ログラー・フィート・フィート・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー・フィー						
	異なる証明書サービス・リソースの作成方法を学習するには、 <u>証明書の概要</u> ページにアクセスしてください。						
	- (ルート)の証明書 (コンパートメントの変更)					A	
	使用可能なデータがあり			\$		0	

証明書のサービスを使って、証明書のライフサイクルを管理します。

証明書	概要				
概要 証明書 認証明 CA/(ンドル	Oracle Ocud Infrastructure証明書 国際第一には、パフトの知識をプライベートを開業・・・・・シップラットラクトを対面 無事を解します。クージロー等とグライベートを開業・フランシップ、WWアーラッと、フーダー WWアフリットラン・フィブマートのとのできないは、WWRのファイ のたちにパブリックルよびアオペートを開催のフィフサイクを参プロビジョニングルよび管理 できます。				
	リソースの作成 ルート認証券 認認和のAMFデジウル原南者を発行し、その大統令管理し ます。在には認識、終予原係デ定着された他のなが含ま れます。機能の能上他のCAは、ルートCAと呼ばれます。 ルート認証券の内は	下位返送場 下位返送場にAVは、デジタル返明着を発行する他の同様の エンティティの発音がか中間エンティティです。 下位返送場の呼ば			
	証明書 証明書はその所含をのイザンティティを証明し、証明 に含まれる心理・一の所属を提明しま、証明をし、 SSACMライーとクライフティーの場合 化、コード車名、および電子着るで提出されます。 正知識の作品				
	リソースのインボート 証明書 第三者CAまたはそか他の信仰されたCAによって発行された店店の証明整がある場合、インボートして砂定できます。	CAパンドル ルート国用書たは中間証明書を合む、英三者CAまたは すの他の管理されたCAによって発行された原中の証明 がある場合。説明書で使用するためにCAパンドルをイン ポートで含まる。			

本番環境の場合は証明書サービスの利便性を考慮して、SSLはロード・バランサにオフロードさせる方が良いかもしれません。

続く

Yuji N. 時刻: 23:03

共有

ボーム

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。 こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.